

新年のご挨拶

統合幕僚長

陸将 山崎幸二

明けましておめでとうございます。

日本郷友連盟の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、その影響は、単なる感染症としての問題にとどまらず、各国の経済活動や安全保障面にも様々な影響をもたらしました。

世界各国が新型コロナウイルス感染症対策に追われる中であっても、我が国の周辺では、依然として活発に軍事活動を行う国々があり、我が国の平和と安全を守ることの重要性は増すばかりです。年頭にあたり、今年の活動状況について振り返るとともに、新年の抱負を述べたいと思います。

昨年は、新型コロナウイルスという見えない敵に対し、自衛隊初となる大規模な感染症対応に係る災害派遣活動を実施しました。

クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号においては、乗客およびクルー全員を安全に帰国させるべく救援活動に全力で当たりました。

市中感染への対応では、自衛隊の持つ感染症対応に係るノウハウを共有するとともに、関係省庁および自治体等との連携強化を図りつつ、感染拡大の防止に取り組んで参りました。

九州に甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨は、コロナ禍における初の大規模自然災害対応となりました。対応にあたっては、組織としての感染対策に万全を期しつつ、速やかに出動して人命救助に当たるとともに、不安を抱える被災者の方々の心に寄り添いながら、生活支援等を行いました。

これら全ての災害派遣活動を通じ、自衛官から1名の感染者も出すことなく任務を全うできたのは、派遣された隊員の高い使命感と、日頃の教育訓練の賜物と認識しております。

このようなコロナ禍にあっても、自衛隊は、我が国周辺の海空域において、平素から警戒監視、対領空侵犯措置をはじめとする各種任務に万全を期して参りました。

国外では、中東地域において日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動を開始するとともに、海賊対処行動を継続して実施する等、海洋安全保障の確保に関わる取組を強化して参りました。国連南スーダン共和国ミッションおよびシナイ半島における多国籍部隊・監視団での活動は、コロナ禍で要員交代の制約がある中でも一貫して活動を継続し、国際社会の平和と安定の維持に積極的に取り組んで参りました。

我が国防衛の基軸である日米同盟強化の観点からは、日米共同演習として、指揮所演習「キーン・エッジ20」および実動演習「キーン・ソード21」を実施しました。

実動演習では、強固な日米同盟の姿を国内外に広く発信するとともに、離島における水陸両用作戦や宇宙状況監視等、より幅広い分野で日米の共同対処能力を向上させることが出来ました。防衛協力・交流に関しては、コロナ禍で活動に制約を受ける中であっても、米豪印をはじめとする同盟国・友好国等との間で可能な限りの手段を尽くして協力関係の強化を図る等、戦略的に防衛協力・交流を推進することが出来ました。

以上のような自衛隊の活動や取組は、国民の皆様の支えや関係機関等との緊密な連携があるから

こそ成し得ることであると認識しております。

日本郷友連盟の皆様に対しまして、改めて心より感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

新年を迎え、我が国周辺の安全保障環境が一層厳しさを増している状況に変化は見られません。中国は、中国籍と推定される潜水艦による奄美大島周辺接続水域での潜没航行、爆撃機等による太平洋への進出を伴う長距離飛行等、我が国周辺海空域における軍事活動を拡大・活発化させています。

尖閣諸島周辺の接続水域内における中国公船の確認日数や領海侵入時間は、いずれも過去最高を更新するなど、力を背景とした一方的な現状変更の試みを執拗に継続しており、強く懸念される状況です。

北朝鮮は、大量破壊兵器や弾道ミサイル開発の推進および運用能力の向上を図っており、こうした軍事活動は我が国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威です。

ロシアは、装備の近代化を推進しているほか、共同パトロールと称する中露の爆撃機による日本周回飛行等、軍事活動を活発化させる傾向にあり、その動向を注視していくことが必要です。

さらには、新型コロナウイルス感染症の流行も、未だ終息の兆しが見えない状況であります。このような中において、自衛隊は、「我が国の平和と独立を守り、領土・領海・領空を守り抜く」という使命を果たすため、本年も引き続き、我が国周辺における警戒監視、対領空侵犯措置等の各種任務を遂行していくとともに、「多次元統合防衛力」の構築に向けた取り組みの一層の推進および政府が掲げる「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現に邁進いたします。

このため、以下の4つを重視して取り組んで参ります。

一つ目は、領域横断作戦に必要な能力の強化です。軍事力の質・量に優れた脅威に対して実効的に抑止および対処するためには、陸・海・空領域のみならず、宇宙・サイバー・電磁波領域を含めた全ての領域における能力を有機的に融合させていくことが必要不可欠です。

このため、大綱・中期防3年目である本年も引き続き、宇宙分野における多国間机上演習等への参加、サイバー防衛態勢・体制の強化等により、さらなる能力向上を図って参ります。

二つ目は、統合運用を支える能力の強化です。これまで直面したことのない安全保障環境の現実の下、平素からの情報収集・警戒監視等の活動をより積極的に実施する必要性が高まっています。事態の特性に応じ、平時から有事までのあらゆる段階における柔軟かつ戦略的な活動を常時継続的に実施し得るよう、統合輸送能力や各種情報通信等の基盤整備についても継続して参ります。

三つ目は、日米同盟の一層の強化です。今年は、東日本大震災で実施した日米共同による「トモダチ作戦」から10年の節目を迎えます。

未曾有の甚大な被害に対する日米共同での対応は、日米同盟の重要性と実効性を証明するものとなりました。

幕僚長から幕僚級までの各階層における地域情勢の認識共有および日米協力深化の方向性についての協議、同盟調整メカニズムを活用した各種事態への対応、共同訓練・演習の実施等を通じ、日米同盟は常に進化してきました。

今後も我が国が自らの防衛力を主体的・自主的に強化する努力を不断に継続しつつ、新領域やグローバルな課題への対応等、幅広い分野における日米共同対処能力の強化を図って参ります。

四つ目は、安全保障協力の強化です。

我が国にとって望ましい安全保障環境を創出するため、米豪印をはじめ、普遍的価値やルールを共有する英・仏等の欧州諸国、カナダ、NZ等との連携強化を図るとともに、東南・南アジア、太平洋島嶼国、中東地域の諸国、ジブチといったインド太平洋地域の国々との関係を強化します。この際、能力構築支援や防衛装備・技術協力といった幅広い手段の効果的な活用に努めて参ります。

最後に、新年にあたり、時代の変化に適応し、国家、国民の皆様の負託にこたえるため、陸・海・空自衛隊が垣根を超えて一丸となり、新型コロナウイルスに対する感染防止対策を万全にしつつ、日々の隊務に精励することをお誓いします。

本年が日本郷友連盟にとりまして、希望に満ちた輝かしい一年となること、そして、会員皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。